



2022年3月1日  
第147号

# JR 東労組 Yokohama

## JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



## 横浜支社での現業機関における柔軟な働き方の実現について(その3)提案を受ける!

横浜地本は2月28日、「横浜支社での現業機関における柔軟な働き方の実現について(その3)」の提案を受けました。内容は以下の通りです。

### 1. 発足箇所

「小田原・伊豆統括センター(仮称)」を「小田原・伊豆統括センター」として発足する。

### 2. 発足日

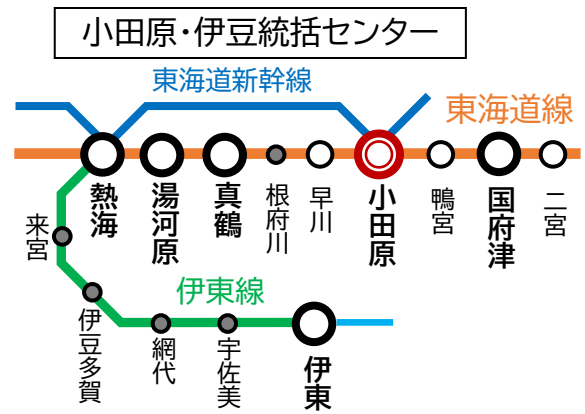
2022年7月1日(金)

### 3. 体制

別紙「箇所体制について」のとおりとする。

### 4. その他

湘南・相模統括センターや小田原・伊豆統括センターにおいて、駅業務と乗務業務の融合化を順次図っていくが、統括センターや営業統括センター、駅への兼務・連携を通じた業務の融合化の取り組みは、全運輸区等で順次実施していく。



【別紙】箇所体制について

	変形等	交代	乗務員		計
			日勤	泊	
管理	17(22)	7(7)			24
一般	15(17)	33(33)	19	16	83

比較 ▲7 ±0 ±0 ±0 ▲7

( )内は発足前における各職場の出面数の総計  
※業務の繁閑に応じて一日あたりの出面数を柔軟に設定する。  
※上長の指示で管理者が一般社員の業務を行うことや、一般社員が管理者の業務を行う場合がある。

### 【 提案時の特徴的な議論 】

組合	会社
今回のエリア選定の考え方は。	職場規模、地域の特徴、業務等を勘案。
国府津運輸区と国府津車両センターからの兼務はあるのか。	業務の融合化を図っていく。駅における案内業務、イベントなど融合や連携はある。
乗務行路の「その他時間」の扱いは。	基本的には上長の指示。駅業務は入ってくる。
CTCとの兼務が進んでいる。CTCの在り方は？	橋本CTCは駅との連携があり、熱海CTCも同じように考える。但し本人の適性は踏まえる。
統括センター内の全ての事業場での勤務はあるか	様々あると思う。通勤の考慮は、一つの視点としてある。
女性設備を拡大する考えは。	整備していきたい。
各職場の事務担当者は集約するのか。	基本的には集約となる。
施策が現場では見えずらいとの声がある。社員の声をどう聴くのか。	勉強会や情報誌、コミュニケーションで理解を深める。
今後エリアを見直す考えはあるのか。	見直す可能性はある。

## 新たな職場形態を担う私たちが議論をリードし不安なく安全に業務出来るようにしよう!!